

〔胸痛〕

「胸痛」といっても、呼吸困難感、動悸、圧迫感など、痛み以外の症状も伴います。

また、心臓に関係する病気のほかにも、胸が痛くなる病気はたくさんあります。

どんな痛みなのかを正確に医師に伝えることで、迅速な診断・治療が可能になります。

■どんな病気で胸痛が起こりますか。

胸痛は、心臓の血管が狭くなったり（狭心症）、詰まったり（心筋梗塞）することで起こるほか、呼吸器（気胸や肺塞栓症など）や消化器（逆流性食道炎や消化性潰瘍など）、筋肉・骨の病気（筋肉痛や骨折など）、神経の病気（帯状疱疹や肋間神経痛など）でも現れます。中でも特に緊急性を要するのが、心筋梗塞や、大動脈の壁が裂けてしまう解離性動脈瘤、気胸、肺塞栓症などの病気です。

胸痛発作が初めて起こった場合や、持続する激しい痛みや冷や汗、呼吸困難などが現れた場合には、我慢せずなるべく早く病医院を受診してください。

■胸が痛くなったらどうすればよいですか。

病医院を受診したら、どのような胸の痛みなのかを正確に医師に伝えることが、診断・治療を的確かつ迅速に進めるためにも大切です。痛みの性状（しめつけられる感じ、押さえつけられるような感じ、息苦しい感じなど）や部位（背中の方に広がるような痛みなのか、1カ所だけが痛いのかなど）、痛みが始まった時期や持続時間、どんなときに痛みが起こるか（呼吸すると痛みが増すのか、動いたり食事をしたときはどうかなど）、繰り返し起こる痛みかどうか（そのたびに痛みが徐々にひどくなるかなど）、どうすると痛みが取れたり楽になるのか、といった点を具体的に伝えましょ

〈胸痛を引き起こす主な病気〉

心臓・血管の病気

- ・急性心筋梗塞
- ・狭心症
- ・解離性動脈瘤



肺の病気

- ・気胸
- ・肺塞栓症



消化器の病気

- ・胃十二指腸潰瘍
- ・逆流性食道炎



骨・筋肉の病気

- ・骨折
- ・肋軟骨炎



神経の病気

- ・帯状疱疹
- ・肋間神経痛



〈病医院にかかるときには〉

- ・どこの部位が痛むのか
- ・痛みがいつから始まったのか
- ・どれくらい続いたのか
- ・繰り返し起こるのか

…といった点を伝えましょう。



冷や汗が出るほど強い痛みであれば、一刻も早く受診してください。

監修：伊賀 幹二（伊賀内科・循環器科院長）

MEMO